

ニューミュージックに見る恋愛風景

著者	久保 正敏
雑誌名	情報処理学会研究報告人文科学とコンピュータ (CH)
巻	25
ページ	49-57
発行年	1995-01-27
その他のタイトル	Scenery of Love Affairs Sung in Japanese "New-Music"
URL	http://hdl.handle.net/10502/5651

ニューミュージックに見る恋愛風景

久保正敏

国立民族学博物館・第五研究部

要旨

1965年から1989年までの間に発表されたニューミュージック系の曲300余を対象に、歌詞をデータ入力するとともに、歌詞から曲を分類する項目を設定し、それに基づいた値のデータベースを作成した。その概略的な分析結果を報告する。25年間の5年毎の5つの期間に区切って、分類項目値の変化を見ると、以下のようないくつかの特徴を指摘できる。

- 1960年代には見られた「若者モノ」は1975年以降減少している。
- 代わって「恋愛モノ」が台頭し、最近では9割近くを占める。
- これに呼応して、歌詞に友人や肉親など恋愛対象以外の人物が登場する曲は急減する。
- 歌詞の時間的的方向性を見ると、第1期は未来指向、第2、3、4期は過去指向、第5期は再び未来指向が優勢となる。

こうした変化と、経済・社会的変化、世相・風俗、ミュージシャンの世代や相互の影響、海外の洋楽からの影響、と言った諸現象との相関についての詳しい分析は、今後の課題としたい。

Scenery of Love Affairs Sung in Japanese "New-Music"

Masatoshi KUBO

National Museum of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, 565 JAPAN

ABSTRACT

This paper reports a preliminary analysis of the text of Japanese songs categorized as "New-Music", made during 1965 and 1989. From a unique analytical viewpoint, several attributes of each song are evaluated, and organized as a personal-computer-based database. By analyzing this database, the following several changes of songs during the period can be pointed out:

- *The number of songs dealing with love affairs increases with the years;
- *In the periods of 1965-1969 and 1985-1989, the future-oriented songs are dominant over past-oriented ones, which may reflect the change of Japanese economic conditions.

1. はじめに

以前、筆者は歌謡曲を旅の観点から分析したが¹⁾、フォークソングやニューミュージックなど若年齢層に愛好される歌の分析をオミットしていた。今回、これらの歌の分析を試みるために、ヒット曲全集から、1965年から1989年の間に発表された302曲を選び、OCR（光学文字読み取り機）で歌詞を読みとってパソコンに入力するとともに、タイプ分けのために設定したいくつかの分類項の値を各曲に与えてデータベースを作成した。これに基づいた本格的な分析はこれからであるが、本稿では分析の視点をつかむための概略を紹介したい。

ソースとした曲集はドレミ楽譜出版社『ニューミュージック ベスト222』及び全音楽譜出版社『フォーク&ニューミュージック決定版』である。もちろん、ここで取り上げられた曲がヒット曲だとする根拠は確たるものではないが、基本集合と考えることにする。また、1975年頃から登場した「ニューミュージック」という呼び方は、1980年代中頃からはポップス系と区別しにくくなっているが²⁾、本稿で参照した曲集に従い、ロックやポップスも含めたものと考えておく。ただし、曲集には、選者の嗜好によるためか、最近のロックに見られるような社会派的な曲はあまり含まれていないようである。今後は、悉皆的なデータ収集を行う必要があると考えている。ちなみに、『オリコン年鑑』では、日本製のヒット曲を、フォーク&ロック、ポップス、演歌の3種に分類しており、シンガー・ソングライター系のをフォーク&ロック、作詞家・作曲家・歌手の分業によるものをポップスと一応見なしているが、結局のところは、発売元の分類に従っているとのことである。

2. 歌詞による分類

データベース化のために設定した分類項は、歌詞の話者、1人称代名詞、2人称代名詞、その他の登場人物、歌詞内の英単語数、モチーフ、恋愛フェーズ、話者の感情、破局のパターン、歌詞の時間的方向性、季節、などである。時間的方向性とは、歌詞の内容が過去に向かうのか未来に向かうのか、といった観点で、筆者が独自に判定したものである。モチーフの値域としては表1に示すものを設定し、値が「恋愛」の場合には、恋愛の進行過程を「恋愛フェーズ」項で表2に示すようにさらに細分してみた。

モチーフ
恋愛
若者・希望の旅立ち
若者・悲壮決別の旅立
若者・苦悩悲哀放浪
若者・友情激励慰め
若者・多感な青春
肉親への思い
女性賛美
反戦
世直し
悲観
コミカル
郷愁
若い日の思い出
若い日への悔恨
旅情
失意
その他

表1 ニューミュージックの
モチーフ

恋愛フェーズ
人恋しさ
届かぬ思い
恋の始まり
恋愛賛歌
日常的愛情風景
やり直し
愛する決意
包容・誘導
逃避的愛
刹那的愛
相手の心不明
傷付け合う愛
別れの予感
別れの瞬間
別れの直後
別れと見送り
別れと再出発
初な恋思い出す
後日思い出す
再生を願う
再会
その他

表2 恋愛フェーズ

すなわち、

特定の相手がない「人恋しさ」の状態（例えば「秋でもないのに」「あなた」）から、片思いなどの「届かぬ思い」（「待つわ」「恋の予感」「大きなたまねぎの下で」など）を経て、「恋の始まり」（「シルエット・ロマンス」「メイン・テーマ」「シーズン・イン・ザ・サン」）に至り、恋愛を謳歌する「恋愛賛歌」（「白いギター」「RIDE ON TIME」「世界でいちばん暑い夏」）の段階に入る。恋愛途中には、

- 「包容・誘導」（「愛を止めないで」「守ってあげたい」）
- 「逃避的愛」（「黒の舟唄」「闇夜の国から」「ドラマティック・レイン」）
- 「刹那的愛」（「きみの朝」「みんなのうた」）
- 「傷つけ合う愛」（「青春時代」）

など色々な愛の形がある。

また、心が一度離れた後「やり直し」を決意したり（「人生の空から」「ガラスのPALMTREE」）、過去と決別して現在の恋人を「愛する決意」を表明する歌（「アメリカン・フィーリング」「安奈」）もある。しかし、人の心を繋ぎ止めることは難しく、

- 「別れの予感」（「心もよう」「追伸」「君は天然色」）を経て、
 - 「別れの瞬間」「別れの直後」（「順子」「恋人よ」「愛はかけろう」「涙のリクエスト」）
- と言った破局を迎える。ただし、必ずしも皆が愁嘆場を演じる訳ではなく、鷹揚に相手の去る姿を「見送る」者あれば（「フレンド」「夢をあきらめないで」）、心機一転「再出発」（「サボテンの花」「明日に向かって走れ」「シングル・アゲイン」）

を健気に誓う者もある。時間がたてば余裕をもって別れを振り返る

- 「後日思い出す」歌（「思い出の渚」「12月の雨」「ノーサイド」）

がある一方で、未練たらたらと「再生を願う」もの（「思い出まくら」「迷い道」「星空のディスタンス」）、またかつての恋人とゆくりなくも「再会」する場面を歌う歌もある（「SWEET MEMORIES」「駅」）。

以上のように、恋の様々な段階における心の機微を描く歌は数多く、ニューミュージックに占める「恋愛」モノの比率は大きい。これらの多くは、夏に恋が生まれて秋に別れ冬に思い出す、と言う決まり事から逸脱しない。表3に、以上の分類値を与えたデータベースの内容の一部を示しておく。

3. 全体の傾向

しかし、モチーフのすべてが恋愛と言うわけではなく、友情や若い日々を懐古する歌もある。そこで、ニューミュージックの時間的な変遷を捉えるために、次のような5年毎の区間、1965年－1969年の第1期、1970年－1974年の第2期、1975年－1979年の第3期、1980年－1984年の第4期、1985年－1989年の第5期に区切り、発表年によって曲を各期間に割り振ってマクロな傾向を見ることにする。表4は、ニューミュージック全体の傾向を見たもので、数字は分類に対応する曲数、カッコ内は各期間の総曲数を母数とする比率を%で示したものである。

まず目につくのは、英語の歌詞を含んだ曲、恋愛をモチーフとする曲、さらに、映画・テレビドラマ主題歌やコマーシャル・ソングと言ったタイアップ・ソングが、年を追う毎に増加していることである。モチーフの点から見れば、第1期のフォーク・ソングにかなり見られた「若者」モノは、「ニューミュージック」という呼称が登場した第2期以降減少し、「恋愛」モノが主流を占めて第4、5期には9割近くに達しており、ニューミュージックのほとんどが恋愛をテーマとする状況である。

ID	題名	話者	人称1	人称2	人物	英数	サ-7	恋愛階	補足情報	時間方向
196501	思い出のグリーン・グラス	不明	私僕	無	パパ、ママ			恋の始まり		過去
196502	涙くんさよなら	男3者	僕	あなた	旅人		希望の旅立ち	初恋		過去
196601	バラが咲いた	男3者	僕	あなた	愛した人		希望の旅立ち	初恋の思い出	夏の日	過去
196602	四つ葉のクローバー	不明	僕	君	若者		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196603	お嬢においで	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196631	君といつまでも	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196632	お嬢においで	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196633	君といつまでも	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196634	銀色の道	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196635	ある道	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196701	想わせないで	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196702	帰つて来たよ	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196703	今日の日	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196704	広い野原	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196705	二人の思い出	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196706	花と小文	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196731	貴様と俺	男3者	僕	君	二人		希望の旅立ち	初恋の思い出	海船、波	過去
196801	主婦のブルース	男3者	私僕	あなた	花		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196802	山	男3者	私僕	あなた	人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196803	山谷ブルース	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196804	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196805	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196806	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196807	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196808	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196809	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196810	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196811	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196831	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196832	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196901	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196902	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196903	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196904	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196905	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196906	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196907	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196908	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196909	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196910	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
196911	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
197001	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
197002	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
197003	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
197004	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
197005	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去
197006	山	男3者	僕	君	青年、友、皆、恋人		希望の旅立ち	初恋の思い出	友情	過去

表3-1 プータースの一時

ID	題名	話者	人称1	人称2	人物	英数	モチーフ	恋段階	補足情報	時間方向
198331	Cat's Eye	男	僕	あなた	we	83	恋愛	恋の始まり	妖しい魅力に惹かれる男？	現在
198332	グッドバイからはじめよう	男	僕	あなた	I, you	25	恋愛	別れの瞬間	女の心が男にはばたけ	過去
198333	Good-Bye青春	男	僕	あなた	I, you	4	恋愛	別れの直後	夜の明け、女に振り回れる	過去
198334	サマーサマシジョン	男	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	再会と懐かしさ	過去
198335	SWEET MEMORIES	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	男に振り回され疲れた女	過去
198336	時をかける少女	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198337	22歳	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198338	初恋	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198339	もしも明日が	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198401	恋の予感	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198402	空のデイズダンス	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198404	秋色吐息	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198431	いっそもモレナレ	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198432	飾りじゃないのよ涙は	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198433	君のハートはマイアムブルーム	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198434	君のハートはマイアムブルーム	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198435	恋人達のペイヴメント	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198436	DANCE	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198437	隣のリクエレスト	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198438	ノーサイドジョージ	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198439	星屑のステラージュ	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198440	MIDNIGHT 2 CALL	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198441	メイン・テーマ	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198442	モニカ	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198501	モニカのPALMTREE	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198502	ff	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198503	ベストセラマー・サマー	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198531	ORACION	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198532	翼の折れたエンジェル	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198533	フレンド	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198534	フレンド	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198535	夢のつづき	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198601	I DARE YOU	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198602	BAN BAN BAN	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198603	ラスベリィ・ドリム	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198631	シーズン・イン・ザ・サン	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198632	Song for U. S. A.	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198633	時の流れに	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198634	My Revolution	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198701	駅	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198702	輝きながら	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198703	Summer Dream	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198704	ろくなんじゃねえ	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198731	夢をあきらめないで	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198732	ロンリー・チャップリン	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198801	クリスマス・イブ	女	私	あなた	あなた	13	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去
198802	SEVEN DAYS WAR	女	私	あなた	あなた	35	恋愛	再会	学園での初恋、片思い	過去

表3-2 パーダースの一挙

こうした状況と呼応して、歌詞に友人や肉親など恋愛対象以外の人物が登場する曲の比率も急減している。「若者モノ」に見られるような人間的な広がりがなく、「恋愛モノ」では、恋愛フェーズがハッピーな状況では、僕と君、わたしとあなた、など二人だけの世界が歌われ、二人の時空間距離が開いた状況では、あいつ・あの娘・あの人などの表現で相手を参照し、他の人物は眼中にないわけである。

「恋愛モノ」が大勢を占める状況は歌詞の時間的方向性にも反映されていて、第1期には「若者」モノが支える「未来指向」の曲が「過去指向」を上回っていたが、その後「恋愛」モノの歌う「過去指向」が「未来指向」を圧倒する。しかし、面白いことに第5期には再び「未来指向」が「過去指向」を上回っているが、これは後述するように恋愛モノのうちで「未来指向」が増加したことによるとと思われる。ただし「過去指向」とは、歌詞が過去だけまたは現在を参照しつつも主に過去に向かうもの、「未来指向」とは、過去や現在を参照するものも含むが主に未来に向かうものである。

時期	総数	英語歌詞入り	恋相手以外の人物登場	TV・映画タイアップ	若者モノ	恋愛モノ	過去指向	未来指向
1965-1969	42	0	16(38.1)	1(2.4)	11(26.2)	18(42.9)	11(26.2)	15(35.7)
1970-1974	82	2(2.4)	6(7.3)	3(3.7)	11(13.4)	54(65.9)	33(40.2)	13(15.9)
1975-1979	77	7(9.1)	11(14.3)	6(7.8)	7(9.1)	60(77.9)	25(32.5)	16(20.8)
1980-1984	64	26(21.7)	2(3.1)	12(18.8)	6(9.4)	56(87.5)	25(39.1)	12(18.8)
1985-1989	37	22(59.5)	0	16(43.2)	4(10.8)	32(86.5)	11(29.7)	15(40.5)

表4 ニューミュージック全体の傾向：()内は総数に対する%を示す

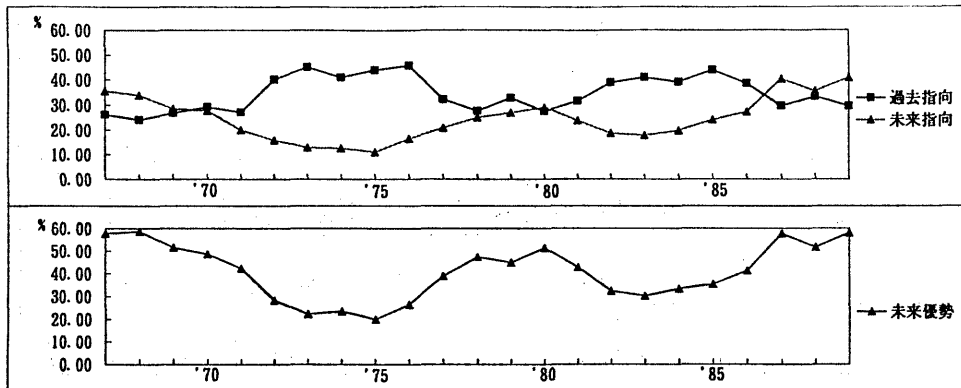


図1 ニューミュージックの時間的方向性 (移動平均)

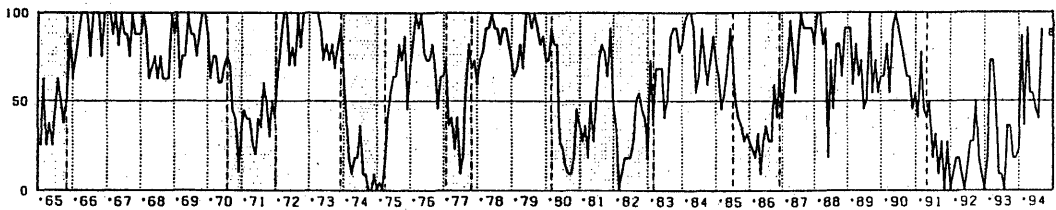


図2 景気動向の一致指数 (出典：経済企画庁編『グラフが語る日米の景気動向』平成6年11月号)

この時間的方向性について、もう少し詳しく見てみよう。図1の上段に示すのは、5年間の期間について「過去指向」と「未来指向」の曲数を集計し、その期間の総曲数で除したものを中央の年の値として割り当てるといふ、単純な移動平均法によって、1969年から1989年の時間的方向性の変化を見たものである。図1下段は、「未来指向」÷（「未来指向」+「過去指向」）の式によって求めた「未来指向の優勢度」の移動平均である。この折れ線グラフを見ると、未来指向が優勢な時期は1970年頃まで、および1985年以降の時期であることが示され、前述のような5つの時間区切りがほぼ妥当であることを裏付けていると思われる。

こうした変化の背景を探るヒントを求めて、経済の動向を調べてみよう。図2には、水平の時間軸を図1と対応付けて描いた景気動向指数を示す。景気動向指数は、景気に敏感な経済指標を選定しそれらの変化方向を合成することにより得られるが、一致指数が50%を越えている時には、上昇している指標が下落している指標より多いことから景気上昇曲面にあると判断される。図2のハッチングを施した部分が不景気の期間とされる。振り返ってみれば、1970年7月までの「いざなぎ景気」の過熱を抑えるための金融引き締めによって生じた1970年後半から1971年いっぱいの不況、その間の1971年8月のドル・ショック、1973年10月の第一次石油ショックが引き起こした1974年から1977年にかけての断続的な不況、1978年12月の第二次石油ショックに対応する金融引き締めから生じた1980年から3年間にわたる戦後最大の不況、1985年9月のプラザ合意による円高不況、が思い起こされる³⁾。

図2と図1の未来優勢の変化とを突き合わせてみると、不景気の時期と未来指向の優勢度が低下する時期とがほぼ重なるように見える。このことだけで、不景気の時期には未来指向が弱まる、と断言することは現時点では不可能であるが、今後の分析次第では、歌詞の時間的方向性と経済動向との相関について知見が得られる可能性はあるだろう。

4. 恋愛モノの傾向

ニューミュージックの主なモチーフが恋愛であるので、以下では恋愛モノに注目してみよう。表5には、恋愛フェーズ、時間的方向性、話者の感情の各分類項について主な値の変化を示した。恋愛フェーズの点からは、恋愛賛歌・日常的愛情風景などハッピーな曲は第1期から時代が下るにつれ漸減しているのに対し、別れの瞬間や別れの直後を描いたアンハッピーな曲は第2、3、4期に多い。また、この3つの時期には「過去指向」が「未来指向」を上回っているし、話者の感情の点から見ても「未練・淋

時期	総数	恋愛フェーズ			時間的方向性		話者の感情	
		恋愛賛歌・ 日常的 愛情風景	別れの瞬間 別れの直後	後日 思い出す	過去指向	未来指向	未練・淋し さ・悲しさ	懐かしさ
1965-1969	18	6(33.3)	2(11.1)	2(11.1)	8(44.4)	3(16.7)	3(16.7)	6(33.3)
1970-1974	54	16(29.6)	5(9.3)	13(24.1)	25(46.3)	6(11.1)	18(33.3)	6(11.1)
1975-1979	60	13(21.7)	20(33.3)	8(13.3)	19(31.7)	10(16.7)	20(33.3)	5(8.3)
1980-1984	56	7(12.5)	10(17.9)	6(10.7)	25(44.6)	9(16.1)	14(25.0)	5(8.9)
1985-1989	32	6(18.8)	1(3.1)	2(6.3)	10(31.3)	13(40.6)	3(9.4)	4(12.5)

表5 「恋愛モノ」の傾向：()内は総数に対する%を示す

しさ・悲しさ」が強い。ところが第5期には別れそのものを歌う曲が減少し、話者の感情も「懐かしさ」が主流となり、未来指向が過去指向を上回るという変化を示す。図3には、図1と同じ方法で求めた「恋愛モノ」の時間的・方向性の時間変化を示す。

表5を見ると、「恋愛モノ」の時間変化は、第1期は過去指向が多いものの悲しみの少ない時期、第2、3、4期は過去指向が極めて強くまた悲嘆の感情が激しい時期、第5期は感情がマイルドになるとともに未来指向の大きい時期、の3つの傾向に大別できそうである。あるいは、第2、3、4期は別れの表現がステレオ・タイプであったが、第5期には恋愛の機微を描く曲が増えた、と言えるのかも知れない。例えば、別れていく相手の生き方を認めて送り出す、という心に余裕のある別れを描く「別れと見送り」フェーズの歌が、第5期には多く見られる(表3-2参照)。また、表6に示すように、第4、5期には、男が振られるパターンが増加している。このように、第4期以降には、恋愛の風景が多様化していると言えそうである。

これらが、経済動向、社会情勢や風俗、ミュージシャンや周辺スタッフの世代交代、などの現象とどのように関連しているのかも興味深い考察課題である。例えば、1981年5月開始『俺たちひょうきん族』、1982年10月開始『笑っていいとも』、1985年4月開始『タケシの元気が出るテレビ』など一連の元気印のテレビ番組、1988年7-9月放映『抱きしめたい』に始まるトレンドードラマが描く恋愛風景、1989年2月開始『いかすバンド天国』がきっかけと言われる若いミュージシャンの台頭、などは、ニューミュージックの描く世界に大きな影響を与えていることが予想される。

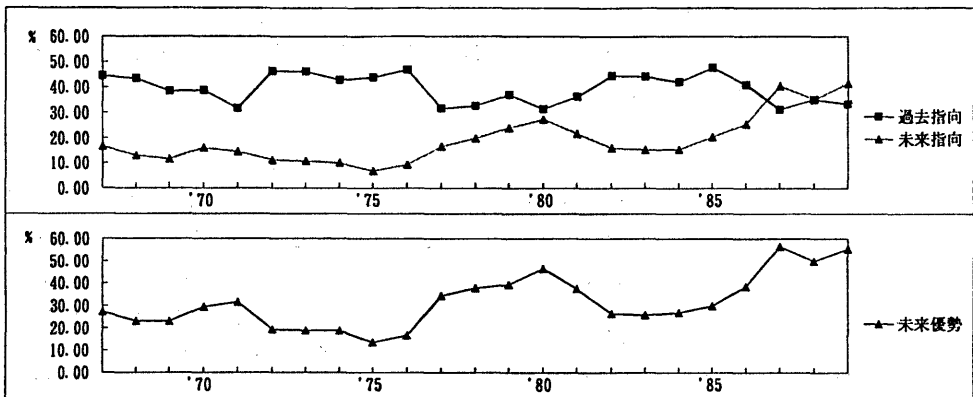


図3 「恋愛モノ」の時間的・方向性 (移動平均)

表6 「恋愛モノ」における振られる男女

時期	総数	男が振られる・裏切られる	女が振られる・裏切られる
1965-1969	18	0	0
1970-1974	54	1	1
1975-1979	60	1	3
1980-1984	56	11	5
1985-1989	32	4	0

5. おわりに

本稿で試みた分析は、データソースが限られたものである上に、恋愛経験が豊富とはいえない男である筆者の独断によるモチーフ分析に基づいており、歌に描かれた微妙な恋心を捉えきつてはいまい。また、世相・風俗や経済現象との相関についての分析も不十分である。今後は、悉皆的なデータ収集、海外ポップスからの影響への目配り、若い女性の目によるモチーフの見直し、ミュージシャンの世代の分析、ミュージシャン同士の影響、さらに、メロディーのコード進行の分析などを含めて考察を深め、別の機会に報告したい。

注

- (1) 久保正敏「歌謡曲の歌詞に見る旅 —昭和の歌謡史私論—」『国立民族学博物館研究報告』15巻4号、pp. 943-986 1991。
- (2) 『オリコン年鑑 1984』pp. 474-475。
- (3) 竹内宏『昭和経済史』筑摩書房 1988。